

議事録（概要）

会議名	平成28年度 第1回芦屋町地域公共交通会議					
会場	芦屋町役場4階 第41会議室					
日時	平成28年5月20日 10:00～11:20					
委員の出欠	会長	鶴原 洋一	出	委員	中川原 達也	出
	副会長	内田 晃	出	委員	吉村 道真	出
	委員	柴田 敬三	出	委員	石川 智雄	出
	委員	緒方 和博	出	委員	大庭 広文	欠
	委員	岩永 剛 (代理 山岡 裕明)	出	委員	堺 裕之 (代理 古川 二郎)	出
	委員	橋村 浩 (代理 松本 繁昌)	出	委員	西 正博 (代理 河津 隆幸) (随行 中菌 裕蔵)	出
	委員	貞包 健一	出			
件名・議題	<p>1. 会長挨拶</p> <p>芦屋町の公共交通に現状（利便は良いと認識しつつも住民の不満足度が高い）についての話と、北九州交通局の日頃のバス運行に対するお礼が述べられた。また、芦屋タウンバスの増便、黒崎芦屋間急行バス運行、病院移転後の交通ネットワークのあり方など、今後の公共交通において検討していくために、本会議で助言及び真摯な議論へのお願いがあった。</p> <p>2. 議事</p> <p>(1) 平成27年度芦屋タウンバス利用状況等について 事務局から説明を行い、委員から質疑・意見等があった。</p> <p>(2) 生活交通確保維持改善計画について 事務局から説明を行い、委員から質疑・意見等があった。</p> <p>(3) その他 事務局から資料の説明を行い、委員から質疑・意見等があった。</p>					
合意事項 決定事項	<p>●会長の選任により、副会長は内田晃氏、監事は石川智雄氏と柴田敬三氏が就くこととなった。</p> <p>●議事2「生活交通確保維持改善計画」について事務局から説明を行い、承認された。</p>					

質疑応答及び意見と説明内容

議事 1 平成 27 年度芦屋タウンバス利用状況等について	
事務局	資料 5 頁について、平成 27 年 3 月 30 日に便数変更及びダイヤ改正を実施して運行の変更はない。資料 6 頁の利用状況等の推移について、平成 26 年度と比べ利用者及び運賃収入共に増加した。増加理由は 4、10 月の自衛隊員異動にともなうもの、夏場の海水浴利用者によるもの、暖冬による外出効果などが推測される。運行経費もバス停上屋設置に伴い増加したため、収支率は平成 26 年度と変わらない結果となったことなどを説明した。
委員	月別利用者数を見ると平成 26 年度と比べて 5・9 月の減少が大きい、何か要因があるのか。それとも自衛隊の異動時期がずれているだけなのか。
事務局	要因はわかっていない。
委員	自衛隊員異動にともなう利用は、当面のみの利用と捉えて良いか。
事務局	異動後、生活が落ち着くまで利用し、それ以降は他の移動手段を利用しているものと推測している。
議事 2 生活交通確保維持改善計画について	
事務局	芦屋タウンバス「はまゆう・遠賀川駅線」は国の補助事業であり、補助申請に必要な計画資料となる。昨年度提出した内容と比較すると、目標数を実績に応じて変更したこと、9 頁の 14 に昨年度の会議内容を付け加えたこと、協議会メンバーとして福岡県交通政策課を付け加えたことを説明した。
委員	7 頁の下段目標のところ、+（プラスという記号）があるのは、平日分と土休分を足すという意味なのか、それとも誤植なのか。
事務局	平日分と土休分を足すという意味のプラス記号である。
会長	この計画は国の補助金申請に添付する資料ということか。
事務局	その通りである。
委員	先ほどの説明の中で、バスの購入を予定しているとの話があったが、どのようなバスを購入し、それによりどのくらい利用者が増えると試算しているのか。
事務局	中型車両のバスを 1 台購入しようと考えている。それにより利用者がどのくらい増えるかという試算はできていない。中型バス購入目的は、一部の時間帯（金曜日 17 時頃及び土曜日 9 時頃）で多くの自衛隊員の利用により、乗れない事案が発生しているため、その便に充てて課題を解消することにある。
会長	中型車両及び現在運行している小型バスの座席数はいくつか。

事務局	現在運行している小型車両の座席数は14、中型車両の座席数は26。
委員	7頁の目標の年間利用者数について、平成27年度の年間利用者が93,000人であるのに対し、16,000人というのは少ないのではないか。
事務局	あくまで、この目標数字は「はまゆう・遠賀川駅線」のみであるため、平日であれば67便ある内の9便分、土休であれば41便ある内の6便分のみでの利用者数として目標数を設定。
会長	この「はまゆう・遠賀川駅線」は、平成25年4月に北九州市営バスの撤退を受け、芦屋タウンバスを山鹿地区に延長した路線であるものの、山鹿地区の利用は皆無と言って良い状況である。運賃も北九州市営バスに乗り継ぐことを考慮し、30円の乗継ぎ割引券も発行しているが利用は伸びない。今後、どのように運行していくか検討課題である。
議事3 その他	
事務局	<p>資料10～12頁にある芦屋タウンバス乗り込みによる調査について、利用者は満足度が高いものの、増便や鉄道との乗継に配慮したダイヤ改正を改善点に挙げるなどを説明した。</p> <p>資料13～16頁にある自治区調査について、1世帯に1人以上自動車免許を保有している割合は90%強と多く、免許保有者は月に1日も満たない程度でしか公共交通を利用していないことや、逆に免許を保有していない者で月に20日以上公共交通を利用する者は、全体の1割程度であったことを説明した。また、満足度は住民意識調査と同様に不満足度が高く、増便や鉄道との乗継に配慮したダイヤ改正を改善点に挙げている。なお、回答した人の8割強の方が芦屋タウンバスの便数を知らないということで周知不足を事務局として痛感していることも説明した。</p> <p>資料17～19頁については参考資料として添付していることを説明した。</p> <p>資料20頁は芦屋町地域公共交通網形成計画を策定する上でのスケジュールを示し、交通会議は今後3回程度予定していることを説明した。</p>
委員	自治区調査については、区長や組長など高齢者を対象とした調査であることを認識する必要があるし、今後、芦屋町地域公共交通網形成計画を策定する際の調査は年齢層をバランス良く実施した方が良い。また、地元の役員であるのに、芦屋タウンバスの便数を知らないというのは、残念なので、地元の役員が率先して周知していくべきだ。
事務局	周知が足りないのは事務局としても反省しているところである。区長会で交通に関する学習会を開催することで調整している。また、各区からの公共交通に関する要望の取りまとめ等をお願いしたいと考えている。

委員	アンケート配布について全町民に取らなかったのはなぜか。
事務局	町のアンケート調査でも回収率が悪く非効率であるため、必ず回収ができるやり方として今回のような配布の仕方を行った。
会長	回収率が低いという理由で町民に配布しないのは良くない。バランスよく全体的に調査すべきであるので、今後はこのようなことがないようにしてほしい。
事務局	わかりました。
会長	今後、芦屋町地域公共交通会議が開かれる際は、事前の資料送付をお願いしたい。
事務局	わかりました。
会長	芦屋町地域公共交通網形成計画を策定する中で追加での開催も考えられるので、その際は、ご対応いただくようお願いする。
委員	芦屋タウンバスガイドについて、改善点が3点ほどある。1点目は路線図で浜口南バス停が停車するバス停なのかどうか、わかりやすく表示する、もしくは注意書きが必要であること。2点目は所要時間がわかる情報がないので、バス停間の距離情報ではなく所要時間を記載する必要があること。特にポケット時刻表には、難しいと思うが駅への着時間がないとわからない。3点目は芦屋タウンバスを知ってもらうために280円の回数券を添付すれば良いのではないかとということ。
事務局	今後、作成する際に参考とさせていただく。